

## マイボーム腺開口部二重配列に関する機能的・組織学的検討

白川 理香<sup>1)</sup>、有田 玲子<sup>1)2)3)</sup>、伊藤 正孝<sup>4)</sup>、澤村 裕正<sup>1)</sup>、天野 史郎<sup>5)6)</sup>

東京大<sup>1)</sup>、伊藤医院<sup>2)</sup>、慶應大<sup>3)</sup>、防衛医大<sup>4)</sup>、井上眼科病院<sup>5)</sup>、宮田眼科病院<sup>6)</sup>

### 【目的】

マイボーム腺開口部二重配列は日常診療でも散見する眼瞼縁所見であるが詳細は分かっていない。小児、成人の眼瞼を観察し更に高齢者の献体眼瞼組織の連続切片を作成し二重配列の頻度、機能的特徴、組織学的構造を明らかにした。

### 【対象と方法】

生体内での観察の対象は全身麻酔下に斜視手術を受ける小児(男児13人, 女児13人)と成人健常ボランティア(男性56人, 女性30人)。組織学的検討の対象は高齢者の献体上眼瞼組織(男性8眼, 女性5眼)。開口部が5個以上連続して二列に並ぶ場合二重配列ありとした。小児では全身麻酔導入後に開口部数測定と二重配列の有無の判定を行った。成人男性では眼瞼幅、マイボスコア、開口部数、眼瞼厚、BUT、シルマー値、上皮障害、涙液メニスカス高、マイバム圧出スコア、ケラトグラフ5MによるNIK BUT、涙液メニスカス高を測定し開口部一列群と二重配列群の比較を行った。上眼瞼組織は水平断連続切片を作成したのち、HE染色し光学顕微鏡で観察した。

### 【結果】

二重配列は上眼瞼のみに認められ頻度は小児で30.7%、成人で31.4%、高齢者眼瞼組織で30.8%であった。成人男性において一列群と二重配列群で各測定項目に有意差は認められなかった。組織像では眼瞼縁にジグザグに並んだ開口部が一対一に中心導管に接続しており、途中で合流することはなかった。

### 【結論】

開口部二重配列は先天性で正常な機能を有する腺の配列に関する解剖学的変異の一つと考えられた。

---

[利益相反 公表基準：該当] 有

共同演者2：【P】

[倫理審査：承認] 有

[IC：取得] 有